

遺伝子組換え食品に関するアンケートの結果

石川県農業短期大学 農業資源研究所

島田多喜子 大谷基泰

1999年10月30～31日、石川県農業短期大学の農大祭が行われ、附属農業資源研究所はそれに参画する形で研究所を開放した。その際、遺伝子組換え食品^(註)(GM食品)に対する意識を調査する目的のアンケートを行った。

GM食品は、1997年に我が国での安全性が確認され、すでに我々の日常の食卓に何らかの形で使われており、意識しないで食べている。しかし、GM作物を使ったものであるという表示をすべき

という消費者の強い要望により、農水省は2001年4月から一定の範囲で表示を義務づけると決定した。それに対応して、いち早くあるビール会社はビールの材料にGMトウモロコシの不使用を宣言し、他のメーカーも追従する形となっている。また、豆腐業界では、非GM大豆の確保に躍起となっているということである。そこで、GM食品に対する一般消費者の関心を知る一助として簡単なアンケート調査を行った。

アンケート

石川県農業短期大学農業資源研究所1999.10

該当するところに○をつけて下さい

1. あなたの性別： 男 女

年齢： 20才以下 21～30才 31～40才 41～50才 51～60才 60才以上

職業： 農業 公務員 教員 会社員 学生 主婦 その他 ()

2. あなたは、日常食品の安全性に気を使っていますか？例えば、

- a. 農薬などが気になるので、いつも有機栽培野菜を買っている。
- b. 時々有機栽培野菜を買っている。
- c. 農薬などは気になるが、有機栽培野菜は高いので殆ど買わない。
- d. 気にしていない(安くてきれいな野菜を買う)。

3. 遺伝子組換え作物・食品(GM食品)に興味がありますか？

- a. 大変関心をもっている。
- b. 少し関心をもっている。
- c. あまり関心がない。
- d. 知らない。

4. あなたはスーパーなどで次のどの豆腐を買いますか？

- a. 「国産大豆、遺伝子非組換え大豆使用」と表示された1丁150円の豆腐。
- b. 「遺伝子組換え大豆使用」と表示された1丁35円の豆腐。
- c. 特に表示のない1丁50円の豆腐。

5. あなたは遺伝子組換えとはどういうことか知っていますか？

- a. 遺伝子組換え技術や遺伝子のことはかなり理解していると思う。
- b. 少し知っている。
- c. まったく分らない。

6. この研究所（石川県農業短期大学附属農業資源研究所）を知っていましたか？

- a. 中に入ったことがある。
- b. 知っていたが、中に入ったことはなかった。
- c. 知らなかった。

**アンケートにご協力ありがとうございました。

「エレガントサマー」または「エンサイ」をお持ち帰り下さい**

1. 回答者の構成

回答者は合計195人であった。そのうち、男性36%、女性64%であった。年齢層は、41才以上の中高年が65%以上を占めていた（図1）。職業は、34%が主婦であった（図2）。

石川県農業短期大学の農大祭は、野菜等農産物が安く販売されることで人気があるため、中高年の主婦が多いことは当然である、また、毎日の食事を賄っている人たちであるため、このアンケートの回答者としても適任であると考えられる。

図2. 回答者の職業

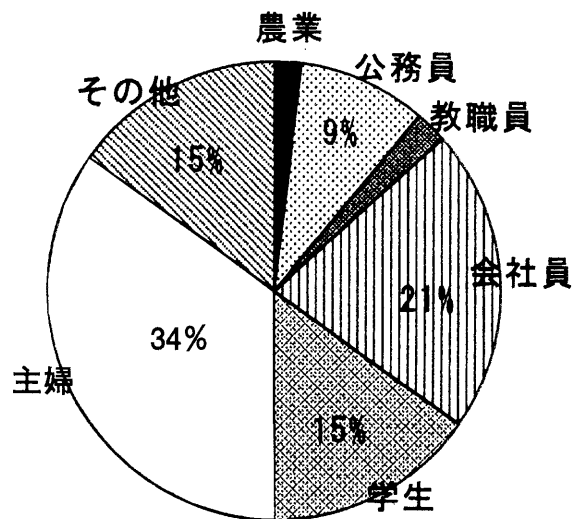
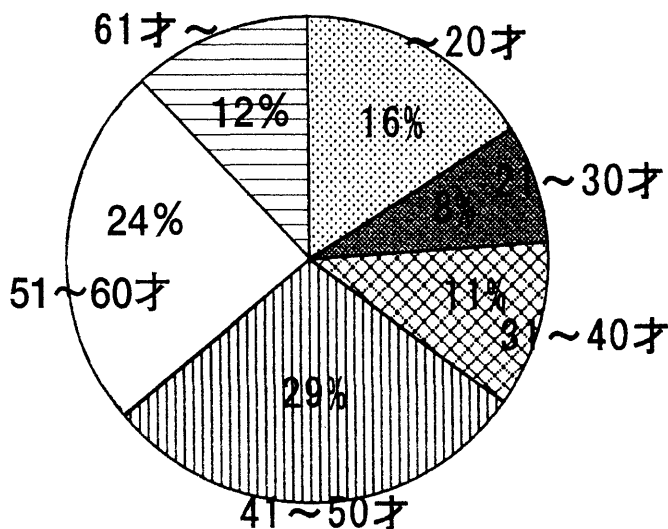


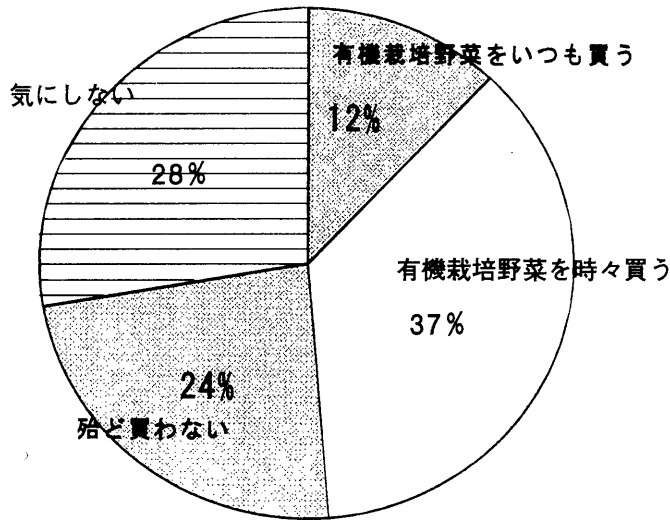
図1. 回答者の年齢層



2. 食品の安全性に対する関心度

日常食品の安全性にどのように気遣っているかを調査するために、有機栽培野菜を例にとって問うた。常に有機栽培野菜を買っている人は、全体の12%にすぎなかったが、時々買う人も入れると49%と、約半数が安全性に気を使っていることが分かる（図3）。また、有機栽培野菜は買わないが気にはしている人も含めると、70%以上となり、全く気にしない人は、28%であった。これを男女別に見ると、全く気にしない人が男性で38%、女性で22%であり、

図3. 食品の安全性に対する関心度



やはり女性の方が、食品の安全性に気を使っているようであった(図4)。また、年齢が上がるに従って食品の安全性に対する関心が高く、30才以下の人の半数は気にしていないことを示した(図5)。

図4. 食品の安全性に対する関心度の男女による違い

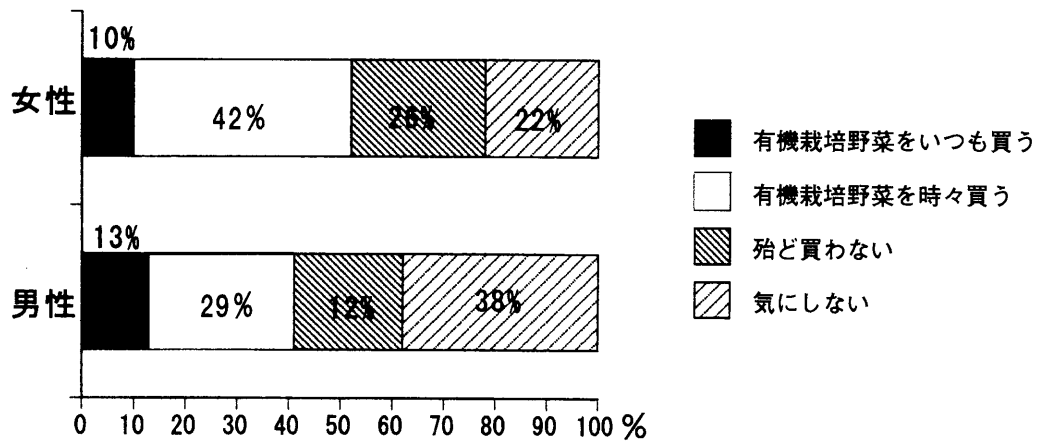
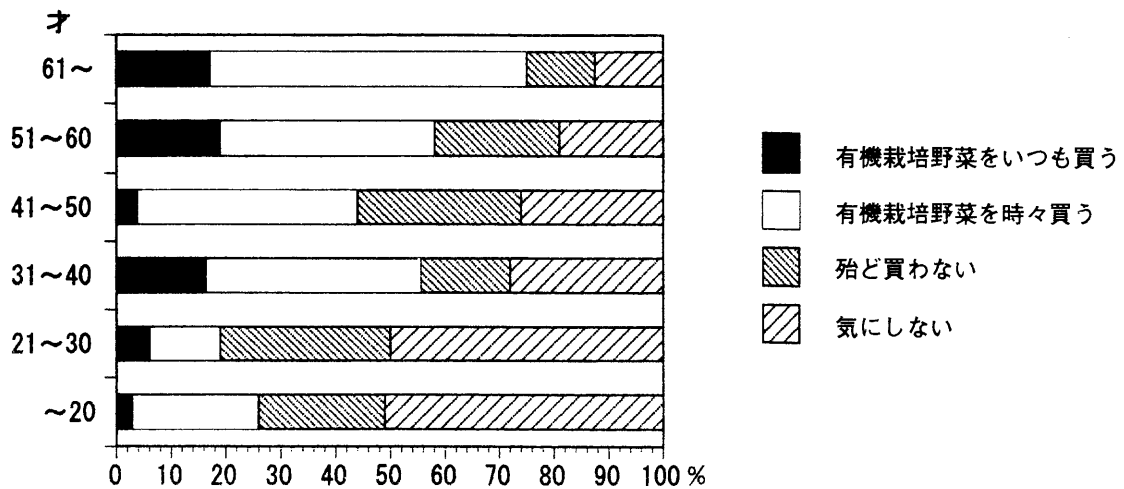


図5. 食品の安全性に対する関心度の年齢による違い

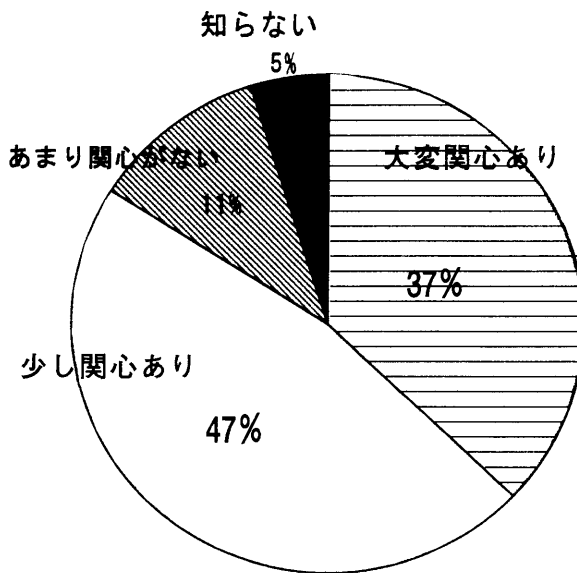


3. GM食品に対する関心度

全体で、GM食品に対して大変興味を持っている人37%、少し興味を持っている人47%をあわせると、興味を持っている人は84%となり、関心度は非常に高かった(図6)。女性の方がやや関心度が高かったが、殆ど男女差はなく、また、どの年齢層でも80%以上の人に関心を持っていた。

やはり、新聞やテレビの報道などでGM食品が取り上げられているので、関心度は高いということである。

図6. GM食品に対する関心度

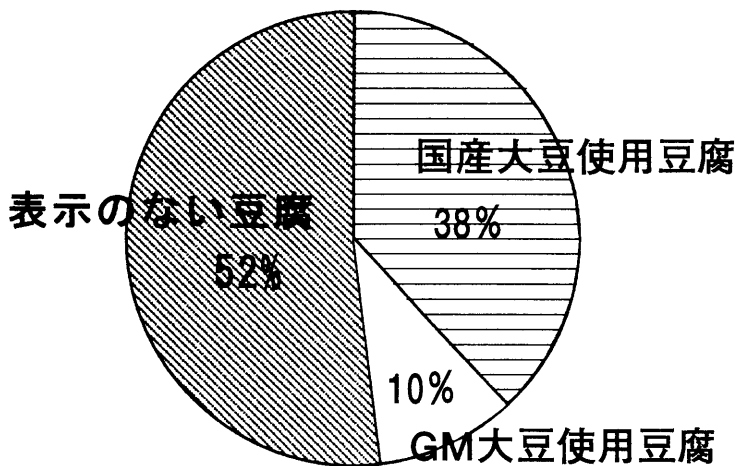


4. どの豆腐を買うか?

GM食品に対する態度を、豆腐を例として問うた。現在、スーパーマーケットでは「国産大豆使用」豆腐と、何も表示していない豆腐が売られており、後者は前者の1/3ぐらいの値段である。「GM大豆使用豆腐」と表示されているものは販売されていないが、もし、そのような表示があれば、どれぐらいの人が買うか調査した。全体の38%の人が、価格の高い「国産大豆使用」を購入し、52%の人が無表示の安い豆腐を買うと答えた(図7)。それに対して、もっとも価格の安い「GM大豆使用豆腐」を買う人は10%にすぎなかった。これを年齢別に分けると、年齢が高くなるに従って国産大豆使用豆腐を買う人が多くなり、30才以下ではGM大豆使用の安い豆腐を買う人が20%以上あった(図8)。これは、有機栽培野菜の購買と同じ傾向であり、食品の安全性に留意している人が「国産大豆使用」を選ぶということを示した。

無表示の豆腐は「GM大豆使用」と解釈してよいのであるが、無表示のものを半数以上の人で購入するのは、曖昧な方がいいということであろうか?それとも、無表示はGM食品でないと解釈し

図7. どの豆腐を買うか



ているのであろうか?この半数以上の人たちが、2001年に表示が義務づけられたとき、どちらを選ぶのであろうか、興味深い。

5. 遺伝子組換えに対する知識

GM食品に対する漠然とした不安は、遺伝子組換えに対する正しい知識によってある程度解消されるのだろうか。回答者の遺伝子組換え、あるいは遺伝子に対する知識を調査することは、重要であるが、その問いは簡単ではない。そこで、今回は、単に「自分はよく知っていると思うか」という問いかけにした。その結果、12%の人がかなり理解していると認識しており、67%の少し知って

図8. どの豆腐を買うか (年齢別)

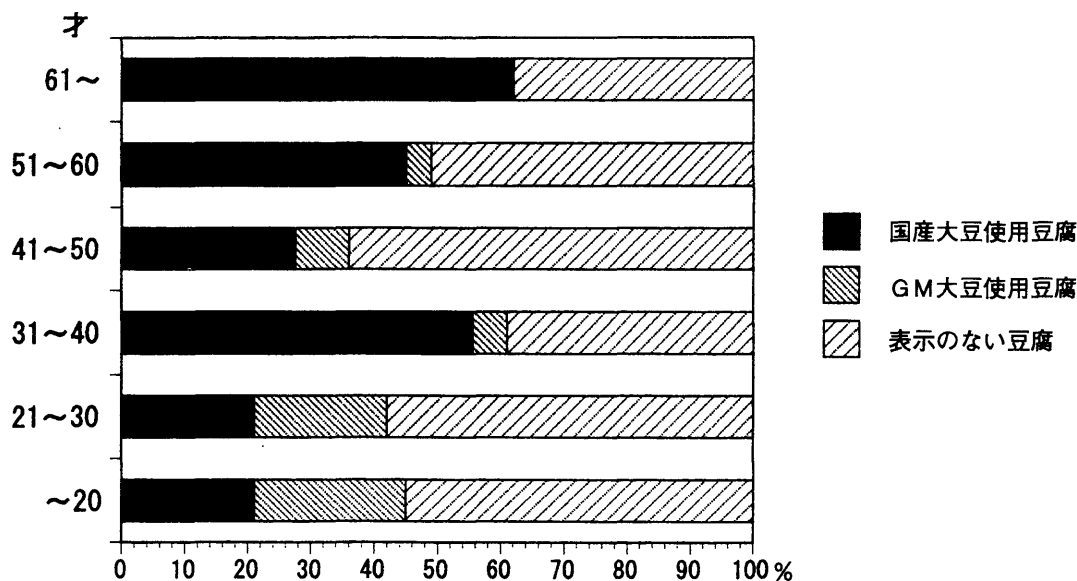
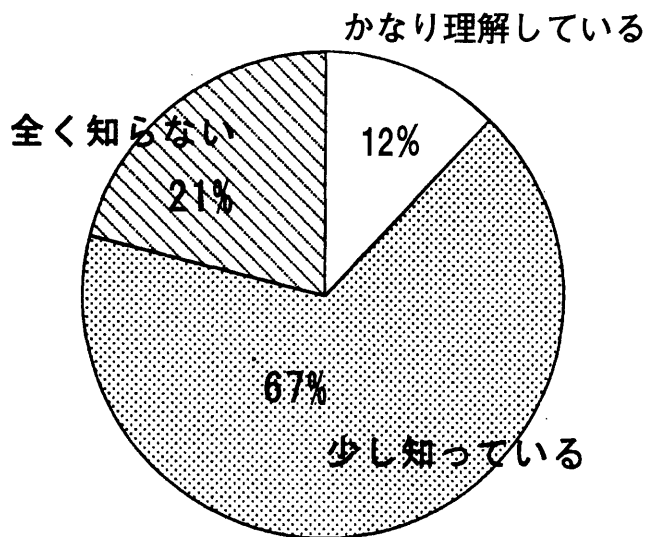


図9. 遺伝子組換えに関する知識

いと答えた人を合わせると80%近くの人を知っていると認識していた(図9)。これは、何をどの程度、正しく知っているのか、はなはだ不明確で、この数字はあまり意味がないかも知れない。

6. おわりに

このアンケートの回答者は、農大祭に来て、しかも農業資源研究所を訪れた人であるから、食品や農業にある程度興味を持っている人たちであろう。しかし、これから一般消費者の考え方の一端を知ることができる。食品の安全性に関して非常に関心が高く、従って、GM食品の関心も高く、年齢が高くなるに従って関心度も高くなることが明らかである。豆腐を例にあげたが、今後「GM食品」表示が義務づけられたら、消費者はどれを選択するのだろうか。



このアンケートの問いが必ずしも適切でないものもあり、十分な分析ができていない点があることは否めない。今後、アンケートの問いを検討するとともに、来年の農大祭の時にもこのようなアンケートを行い、意識の変化も調査したいと考えている。

(註) GM: genetically modified

(10) 第三種郵便物認可

農 業 と 科 学

(毎月1日発行) 平成12年2月1日第504号

